校内研修計画

甲州市立祝小学校

１　学校課題

祝地区は、自然豊かで葡萄栽培、ワイン作りを中心とした地域である。学校と地域との結びつきが強く、学校教育に地域の方は理解を示し、とても協力的である。温かく優しい地域の方に見守られながら、児童は明るく元気に生活している。学力検査結果から課題を把握し、課題解決のために取り組みを行ったが、「人の話をしっかり聞くこと」「話し合い、互いに考えを深めていくこと」「文章を正確に読み取り立式すること」「与えられた情報の中から必要な情報を読みとること」「式の意味を理解すること」が、課題として挙げられている。

昨年度までに授業の中や家庭で活用し、利活用が日常化してきた。様々な場面で利用することができているが、どのような場面で活用するか等の有効な活用方法について検討していく必要がある。児童は、ICT端末を学習ツールの一つとして毎日活用することができているが、ドリルの取り組み方やタイピング速度に個人差が見られるようになった。

２　研究主題

『自ら学び続ける祝っ子』

－子どもの学び方を支援する手立てを通してー

３　主題設定の理由

　現行の学習指導要領では、変化の激しい社会において自ら課題を見つけて、考え、判断して行動できる力（知）、思いやりや感動する心など豊かな人間性（徳）、たくましく生きるための健康や体力（体）を身に付けることが挙げられている。そのため、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童の主体的・対話的で 深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと、デジタルとリアルな体験を組み合わせて、子供たちが、自ら選択し・決定し、行動することを大切にした「子供主体の学び」つくりに取り組むことが求められている。

　中央教育審議会諮問においては、主体的に学びに向かうことができてない子供が増加しているという現状があり、多様性を包摂し、可能性を開花させる教育の実現が喫緊の課題であると明記されている。習得した知識を現実の事象と関連付けて理解したり、概念としての知識の習得や深い意味理解をしたりするために、自律的に学び続け、夢をかなえる学びへとつなげる必要がある。

　本校では、ICT端末を学習基盤として、子供の可能性を広げる「個別最適な学び」や「協働的な学び」が実現できるよう積極的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業づくり・授業改善を進めてきた。様々な教科や場面で、子供たちの学びを深めるための手段としてICT端末を活用し、実践での活用方法を研究することができた。特に、話し合い活動や考えの共有の場面でのICT活用の授業実践を通して、協働的な学びにおけるICT端末の効果的な活用方法について、共有することができた。一方で個々に合わせた教材や課題設定の方法、また情報収集における必要な情報選択の仕方については、研究が必要であった。

　そこで、今年度は、昨年度までの研究を継承しながら、問題解決的な学習の探究のプロセスの質の向上を目指す中で、教師も児童も考える技法を働かせ、主題に迫る。ICT端末の日常的な活用を推進し、常に教科の特質に合わせた活用場面、方法について追求していく。甲州市の「夢をかなえる学び」やティーチャーズノートには、子ども主体の「学び続ける力」を育てる重要性が述べられている。それらを柱としながら学び続ける力を育成していきたい。そのために学びを支援する手立てとして、子供たちがわくわくする学習課題の設定ができるよう、資料の提示の仕方を工夫する。つまり、追究しがいのある情報を提供し、児童は情報収集する中で「どのように？」「えっどうして？」となるような動機づけを行っていく。子ども自ら課題設定を行い、探究的な学びを通して、没入していく。また、授業の中で、「児童が学びやすい環境づくり」にも取り組み、児童が自分で選択・決定する場面を増やし、各教科等で身に付けさせたい資質・能力につなげていく。さらに、思考スキルや思考ツールの学習方略も活用していく。教師に求められるのは、子どもが没入し、学び続け、深い学びへと誘う単元構成である。そのために一斉授業と個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実をどのように織り交ぜていくのか祝小スケールを活用しながら単元設計していく。学び続けることが持続していくためには、概念理解等、深い学びへとつなげていくことが必要である。最も重要なのが単元を通して「見方・考え方」を意識し、働かせ、身に付けさせることである。協働的な学びは個別最適な学びを支え、議論を通して深い学びへ誘う。クラウド環境を前向きに活かし「今の学び状況をリアルタイムに」教師も子どもたちも進捗を共有することにより、対話・議論などの協働的な学びも加速する。このように「主体的・対話的で深い学び」の授業改善をすることにより、子ども主体の「自ら学び続ける祝っ子」へとつなげていきたいと考え、本主題を設定した。

４　研究の内容と方法

（１）授業研究　（公開研究会・ICTを効果的に活用した授業研究）

（２）各種調査結果の分析・課題把握・活用

（３）研修（ICT端末活用，LDXについて等の学習会）

（４）甲州市「夢をかなえる学びのプロジェクト」との連携　・WEBQUの実施と分析・活用の充実

５　校内研修計画

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 研究内容 | 担当者 | 日程  （授業予定日） | |  | |
| ◎リーディングDXスクールの趣旨に則り、ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの授業について校内研で学習会。  ◎ICTを学習基盤とした先進事例の動画を見合い、学び方をどのように育てていくか検討。 | 研究主任 | 4 | 4 | ① |  |
| 9 | ② |  |
| 16 | ③ |  |
| 30 | ④ |  |
| ◎学校DX戦略アドバイザー（三井一希先生）を招聘し、全学年の授業を見ていただき、指導、助言をいただく。  ◎校内研においてクラウド環境を活用した子ども主体の授業についての学習会。 |  | 5 | ７ |  | 春季教研 |
|  | 14 |  | ブロック交流研 |
| 育成P | 16 |  | 教育講演会 |
| 研究主任 | 23 | ⑤ | 三井先生来校 |
| ◎甲州市「夢をかなえる学びのプロジェクト」教育講演会において、春日井市の先進校の実践事例を学び、共有する。  ◎研修から取り入れていく点を確認し、各教科の授業づくりに活かす。 | ブロック長  研究主任  学級担任 | 6 | 4 | ⑥ |  |
| 11 |  |  |
| 18 | ⑦ |  |
| 甲州市P | 27 |  | 教育講演会 |
| ◎クラウド環境を活用した子ども主体の授業を全学級実施し、管理職による指導助言を行う。 | 研究主任 | 7 | 9 | ⑧ |  |
| ◎2学期に向けての個別最適な学びと協働的な学びの日常時の授業改善へのさらなる学び方等の方策を練る。  ◎校務DX化チェックリストの自校点検を行い、1学期の課題点を集約し、2学期からの改善方策を検討する。 | 研究主任  各担当 | 8 | 20 | ⑨ |  |
| ◎校務について効率化が図れるものを順次、2学期から校務DXを展開していく。  ◎9／11（木）三井先生による、全学年の授業視察、指導助言。 | 研究主任  授業者  甲州市P  教務主任  研究主任 | 9 | 11 | ⑩ | 三井先生来校 |
| 17 |  | 教協 |
| 24 | ⑪ |  |
| ◎祝小学校の公開授業を10／24（金）に実施。三井先生による指導助言。  ◎公開授業の参加をHP等で地域内外に広く呼びかけ、情報発信。 | 授業者  研究主任  研究主任 | 10 | 15 | ⑫ |  |
| 22 |  | 教育講演会 |
| 24 |  | 公開研究会 |
| ◎勝沼中学校の公開授業を参観し、クラウド環境を活かした個別最適な学びと協働的な学びについて共通理解をもつ。 | ブロック長  研究主任  授業者 | 11 | 5 | ⑬ |  |
| 26 |  | ブロック研 |
| ◎本校の授業を甲州市ICTサイトや甲州市クラスルームにて市内の小中学校に情報発信して共有 | 甲州市P | 12 | 2 |  | 教育講演会 |
| 研究主任 |  | 10 | ⑭ |  |
| ◎1年間を振り返り、子ども主体の授業実践の成果と課題、校務DXの成果と課題を洗い出し、教職全体で共有 |  | １ | 21 | ⑮ |  |
| ◎今年度の成果と課題から次年度の方向性について具体策をまとめる。  ◎4月からすぐに実施できることを共通確認 | 研究主任 | 2 | ４ | ⑯ |  |